

# 評価調査結果要約表

## I. 案件の概要

- 国名：タイ王国
- 案件名：ラオスの保健人材育成のための予防接種のマネジメント及び監視活動
- 分野：保健医療
- 援助形態：第三国集団研修
- 所轄部署：JICAタイ事務所
- 協力金額：5,451,116 タイバーツ
- 研修員一人当たりコスト：85,174 タイバーツ
- 日本の貢献割合：88.22%
- 協力期間（R/D）：2000年9月14日  
開始：2000年度  
終了：2004年度
- 先方関係機関：外務省 技術・経済協力局（DTEC）  
コンケン大学看護学部
- 実施機関：コンケン大学看護学部

### 1. プロジェクトの背景

ラオス保健省におけるJICAプロジェクト方式技術協力プライマリーヘルスケアプロジェクトは1992年から1998年まで実施された。その後、保健セクターの様々な研修プロジェクトがラオス政府、コンケン大学、JICAの協力のもとに実施されてきた。予防接種拡大計画（EPI）のマネジメントと監視活動の研修は日本とタイ王国の協力のもとラオス国内の関連分野の人材育成を目的として実施された。タイ王国は疾病の予防接種と監視活動に成功した国の1つであり、それを背景としてコンケン大学は1993年から1999年まで対象疾病の予防接種のマネジメントと監視活動研修の研修を実施した。コースはJICA、タイ王国政府、ラオス国政府によってその有用性が確認され、JICAの第三国研修（TCTP）のスキームとして実施に移された。

### 2. プロジェクトの概要

本トレーニングコースは、予防接種に関するラオスの保健セクター人材の技術の向上のために実施された5週間のプログラムで、コンケン大学の看護学部で実施された。このコースはタイ語で実施され、講義のほか、現場視察やタイ王国のヘルスセンターでの実習が含まれていた。2000年度から2003年度までの研修員は合計63人である。

#### (1) 研修プログラムのアウトプット

- 1) アウトプット1：予防接種拡大の計画、実施、評価等マネジメントに関するノウハウを取得する。
- 2) アウトプット2：予防接種拡大に関する情報、教育、コミュニケーションに関する知識を取得する。
- 3) アウトプット3：予防接種拡大のための監視活動を積極的に行うことができるようになる。
- 4) アウトプット4：コールドチェーンの保存、監視に関するノウハウを取得する。
- 5) アウトプット5：予防接種拡大・監視への参加を促すノウハウを取得する。
- 6) アウトプット6：予防接種拡大とその監視活動に関するプロジェクト形成のための能力を取得する。

#### (2) 投入

日本側：4,809,124 タイバーツ（88.22%）

相手国側：641,992 タイバーツ（11.78%）

## II. 評価調査団の概要

### 評価調査団

齊藤淳、プラシット・パタナキリパイブン、チャソパ・クリンブン、岡本純子、小笠原未歩子  
調査期間：2004年1月21日～2004年3月31日（2003年度）

評価種類：終了時調査

## III. 評価の結果

### 1. 研修プログラムの達成度

研修員は研修コースから多くを得ることができ、ほとんどの研修員は、予防接種拡大マネジメント、母子保健サービス、伝染病とその監視活動、情報、教育及びコミュニケーションやプロジェクト形成等、研修で身に着けた知識や技術を業務の上で活用しており、当初設定した研修の目的は十分に達成したと考えられる。

### 2. 評価結果

#### (1) アウトプットの達成度の分析

予防接種拡大及び監視活動の研修にあたって当初設定したアウトプットのほとんどは達成できた。研修員は業務に必要な知識を向上させ、習得した知識を現状の業務に利用しているほか、帰国後指導者として保健セクターの他の職員へのトレーニングにもあたっている。

#### (2) 妥当性の分析

本研修は、ラオス政府の保健セクターにおける予防接種活動の強化の施策、必要性に対応している。EPIプログラムは、ラオス政府の保健セクターで最も優先度の高いプログラムである。とくに、近年予防接種にあわせて他の保健サービスも同時に提供することがラオスの保健セクターの最大の課題である。これにのっとり、本プログラムでは、予防接種の計画、実施、流通と冷当保管、監視活動、社会参加、保健教育、情報、コミュニケーション及びプロジェクト形成といった予防接種拡大や母子保健などの分野の人材への実践的な知識を提供した。

### 3. 研修プログラムを促進する要因

本研修プログラムを成功に導いた要因として以下のようなものが挙げられる：

- よく準備されたカリキュラムとコースデザイン
- 一カ国（ラオス）に研修参加国を絞ったこと
- 研修実施機関に蓄積されたラオスの保健セクターの現状に関する知識
- 研修員のニーズをもとにしたコースの柔軟なスケジュール調整
- タイとラオスの地理的、環境的、文化的な類似性
- 関係者の緊密な協力と共同作業
- 実施機関の専従担当者の存在
- ラオス政府保健省側での効果的な研修員選考
- コース期間中の研修員の高いモチベーション

### 4. 研修プログラムの阻害要因

本研修の阻害要因として2点指摘できる。第1点目は研修員のバックグラウンドが大きく異なり、ニーズや理解度が異なることから、情報提供などが困難であること。第2点目として、ラオスの通信事情の悪さが、研修員募集、出願時の時間的なロスに繋がり、地方部局からの研修員の参加が困難な点があげられる。

## 5. 結論

研修員及び研修員の派遣元機関は、本研修コースが極めて有意義かつラオスの保健セクターに貢献したものであると評価している。本プログラムでは、予防接種の計画、実施、流通と冷凍保管、監視活動、社会参加、保健教育、情報、コミュニケーション及びプロジェクト形成といった予防接種拡大や母子保健などの分野に携わる人材への実践的な知識の提供を可能にすることができた。このような成功は関係者間の協力が大きく起因している。トレーニングの基本的な方向性や構成はラオス側からのニーズに対応して随時更新されてきた。また、研修への参加需要も未だに高くある。このことから、本研修は成功であったと評価でき、今年度のプログラムが終了したあとも継続されるべきであると考えられる。

## 6. 提言

ラオス政府側の本研修に対する需要はかなり大きく、ラオスの保健セクターの人材育成には寄与するものである。従って、このプログラムは今後とも引き続き実施することが望まれる。

### タイ王国に対する提言

- ラオス保健省の協力のもとプログラムのアウトプット及び関連するカリキュラムの見直しの実施
- 研修期間の見直し
- ラオス国の現況やニーズ調査の実施
- 研修生による研修終了時の評価アンケートの見直し
- 研修後の研修員に対する評価及びモニタリングの実施

### JICAに対する提言

- 実践的訓練のためのコース期間延長
- 研修募集期間の延長

## 7. 教訓

本研修を通じて、以下の事柄の重要性を教訓として学ぶことができた。

- 実施機関との協力関係および実施機関の人材の育成
- 保健セクターにおける課題の類似性  
(タイの経験とラオスの現状課題の類似性)
- 研修をタイ王国で実施することで地理的、文化的、言語的類似性によって生じる利点
- ニーズの把握、プログラム形成及びカリキュラムのデザイン
- プロジェクトの運営時の関係者間のコミュニケーション
- 研修後のモニタリングとフィードバック